

西成区プレーパーク事業調査業務委託

大阪市立大学は、2014年8月8日に西成区と「プレーパーク事業調査」の業務委託契約を結びました。プレーパークは、冒険遊び場とも呼ばれていて、子どもたちには制約が少なく、自分の責任で自由に遊ぶことができます。

しかしながら行政と連携できているプレーパークは全国でも少なく、常設化されているところもごくわずかです。西成区はプレーパークの常設化実施に向けて取り組んでおり、大阪市立大学地域連携センターでは、常設化に向けての課題や実施方法、実施場所の調査分析を行っています。

8月24日、25日には、西成公園においてプレーパークのモデル実施が行われました。プレーパークにとって欠かせないのは、地域住民がつながりあって、共に作り上げていく遊び場にしていこうということです。これまで西成区で子どもの遊び場と居場所の創設についての実践をおこなってきた「にしなり★プレーパークをつくろう！プロジェクト」の地域ボランティアを中心に、大阪市建設局（公園管理）や西成区単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業（ひと花プロジェクト）の協力のもと、子どもたちのためのプレーパークができました。

今後は、ワークショップや人材育成研修、モデル実施を通じ、OJT（オン・ザ・ジョブトレーニング）と位置づけながら、来年度以降の本格実施にあたってのプレーリーダーやアシスタントの発掘・育成にもつながっていくように、調査と実践が結びつくような取り組みを目指しています。



臣永西成区長の挨拶



ひと花ボランティアの協力により、
棚から砂場まで滑り落ちるウォータースライダーが出来上がりました



ツリーハウスやモンキーロープの制作には、
ボランティアさんのご協力をいただきました。



ツリーハウス周囲の様子



モンキーロープに挑戦する青年



工作エリアの様子 椅子制作が人気でした



地域住民と学生の手ほどきを受けながら竹馬に乗る様子



バンブーシャワー



プレーパークの理念 (にしなり★プレーパークをつくろうプロジェクトより)